

## 早稲田大学 商学部 国語 講評

## 〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分(現代文1問、古文1問、漢文1問)
難易度	昨年比、やや難化

## 〔大問別講評〕

一 評論文。「近現代のエコロジー思想」について。

出典：伊藤邦武『経済学の哲学』。

《本文字数：約 4000 字＝昨年より約 200 字減少。設問数：11＝昨年より1問増加。》

小問	難易度	コメント
問一	やや難	【漢字書き取り】a「享受」は標準レベルだが、bの「糾」、cの「傲」はやや難しい。
問二	やや易	【傍線部説明】②の内容から容易に判断できる。道徳的配慮の対象は動物であって植物は含まれない。
問三	やや易	【空欄補充】③の第二段落の第一文・第二文から容易に判断できる。ハは、「無機物と同一視されて」が不適切。
問四	標準	【傍線部説明】同段落と次段落の内容から判断できる。ハは、「後者が前者を利活用する」が不適切。
問五	やや難	【空欄補充】③の最後の一文に「生物中心主義」とあるが、「中心」は二番目の空欄にあてはまらない。「生物中心主義」と同様の意味になる語を探す。③の第二段落の第二文にある。
問六	やや易	【空欄補充】Ⅲは問五との関連から、Ⅳ・Ⅴは最初の空欄の直後の内容から、それぞれ容易に判断できる。
問七	標準	【空欄補充－記述】「名誉」と「富」は、空欄Ⅵの次段落と最終段落にある。解答例は原文の通りだが、最終段落の表現を利用した「名誉ある富を追求する」も正解となるだろう。
問八	やや易	【空欄補充】直前の「他人と自分の生活の質を考慮…」から容易に選択できる。
問九	やや難	【傍線部説明】「現代社会」の特徴は空欄Ⅵを含む段落で述べられている。そのような現代社会に対して、「名誉ある富の追求」を重要とする「観点を堅持する」という意味である。
問十	標準	【内容合致】ニは、②の考え方の説明だが、「動物の幸福の本質を…」以下が不適切である。
問十一	やや易	【本文理解】Aは「動物の苦痛」、Bは「植物の権利」、Cは「共生」、Dは「人間の合理的理性」などに着目すれば、それぞれ容易に判断できる。

二 古文。出典：『堤中納言物語』『虫めづる姫君』。

《本文字数：約 1450 字＝昨年より約 150 字減少。設問数7＝昨年より 1 問減少。》

小問	難易度	コメント
問十二	やや難	【空欄補充】後ろの「几帳…けり」がヒント。状況を的確につかまねばならず難しい。
問十三	易	【文法】願望の終助詞「なむ」を選ぶ。基本である。
問十四	やや易	【傍線部理解】「例の」に着目する。
問十五	やや難	【和歌の修辞法】「這ふ這ふ」と「長き」が蛇の縁語。消去法が有効。
問十六	易	【空欄補充】「な…そ」で禁止の表現。基本中の基本。
問十七	標準	【敬意の対象】①＝蛇に似せた仕掛けをつくったのは誰か。②＝虫を愛玩しているのは誰か。③＝姫君に忠告して戻って行くのは誰か。
問十八	標準	【内容理解】12行目からの段落に着目する。イ・ニは「擁護」しているわけではない。

三 漢文。出典：龔煒『巢林筆談』巻二。

《本文字数：186 字＝昨年より 22 字増加。設問数：3＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十九	やや易	【空欄補充】「対」は、「こたフ」と読む場合がある。
問二十	やや易	【返り点】返り点の付け方のルールに明らかに反するものを削っていく。 消去法が有効である。
問二十一	やや難	【内容合致】イは本文前半に合致する。ニは「追加…促され」が不適。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は昨年よりやや難化した。

大問一は、「近現代のエコロジー思想」についての評論文。昨年より難化した。4年連続で 4000 字を超える長文が出題され、記述問題も5年連続で出題された。頻出論点からの出題であるため、現代文の学習をしっかりとってきた受験生には手ごたえがあっただろう。問十一では会話文が出題された。

大問二は、『堤中納言物語』。難易度は昨年並み。早稲田の中では、標準レベルの出題である。7割以上は得点したいところだ。

大問三は、『巢林筆談』。難易度は昨年並み。基本レベルの設問はしっかり得点しておきたい。